

南信州広域連合第9回広域連合会議 結果報告

日時：平成30年12月19日(水) 16:10～17:30

場所：飯田市役所C棟3階 (311～313 会議室)

【出席者】14 市町村長、副管理者

〔南信州地域振興局〕奥原副局長

〔飯田建設事務所〕坂田所長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔飯田広域消防〕大藏消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤次長補佐兼庶務係長・櫻井広域振興係長・

秋山介護保険係長・林庶務係主事

1 開 会…16:10

2 広域連合長 挨拶

3 協議・報告事項

(1) リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討について

① これまでの状況報告について (資料No.1) 【説明者：高田事務局長】

② アスリートが叶える「伊那谷リアルドリーム」プロジェクト 5,000人収容アリーナスタジアム構想 (資料No.1-2) 【説明者：株式会社 VC長野クリエイティブスポーツ代表理事 笹川星哉 氏】

- ・自己紹介及びチーム紹介
- ・今シーズン1部リーグに昇格。3,000人以上を収容する体育館でホーム試合をすることが大きな障壁だった。
- ・長野県内でトップリーグが開催出来る主要な体育館は、長野市のホワイトリンクと松本市総合体育館の2施設のみ。
- ・南信地区を拠点としているため、近くの松本市総合体育館をホームアリーナとして活動していくしかない状況。
- ・本物の試合を外でやっていることに対して、ゆくゆくは地元でやっていきたい。
- ・ゼビオアリーナ仙台の紹介 (5,000人収容アリーナの必要性)。
- ・住民の皆様とのつながりを尊重していきたい。
- ・冬場はインドアスポーツで収益を、夏場はコンサートやコンベンションで収益を。
- ・上下伊那で一つとなり、地域の人達が熱くなり一つとなるまちづくりが出来ればと願っている。

(主な意見)

- ・高森町 提案の補足として、地域振興を自分たちで進めていく一つの術としてこのアリーナを南信州に持ってくるという大前提の中で、もし自分たちがこのアリーナを利用させていただけるのならこうしますという提案をしていただいた。一つ的手段や方向性として必ずしも間違った見方をしている訳ではなく、参考になると思う。どういう方向性を持って何を整備するかを広域連合としても考えていかなければならない。

専門委員会の協議の場でも彼らを加えていただきたい。アリーナを点で捉えるのではなく、既存施設を含め下伊那上伊那を面で繋げていく視点を持って進めてもらいたい。

- ・阿智村 ゼビオアリーナ仙台をご紹介いただいたが、仙台市の補助制度もあると知った。笹川氏のコネクションがあればスポーツメーカー等へアプローチをしてみても。
- ・連合長 アリーナのクラス別分類について、クラスBは2,000人から6,000人未満。5,000人収容のアリーナは地方にとってはチャレンジ。建設コストやランニングコストも考慮すると3,000人か5,000人では同じBクラスでも分かれ目になる。その辺の見解は。
- ・笹川氏 様々なインドアスポーツや興行収益を生み出すトップリーグを招くには5,000人ラインがベースになる。国際大会を含めた最低基準でもある。
- ・連合長 いわゆる2部リーグならば3,000人で足りるが、1部リーグとなると足りないという認識か。
- ・笹川氏 リーグ別で考えればそうである。本物と呼び込むという点では、5,000人が目安。
- ・高森町 収益のことを考えると、実際は3,000人のアリーナよりも5,000人のアリーナのほうが収益が上がることは考えられるが、その辺りは。
- ・笹川氏 現状は900万円ほどの売り上げ。ゼビオアリーナ仙台では3,000万円ほど。
- ・高森町 芸能関係等見ても5,000人の収容規模はあった方がよい。
- ・連合長 先日、立川へ行って3,000人規模のアリーナを見てきたが、印象としてコストを抑えながら出来るスポーツを運営されているので、ランニングコストも賄っている印象を受けた。5,000人ありきというよりは、3,000人レベルでも出来るんだという見方をした。その辺りは。
- ・笹川氏 スポーツだけならばいけると思うが、芸能関係は厳しい。
- ・副管理者 収容人数5,000人レベルの誘致状況を見るとワクワクするが、残りの300日以上の利用はどうなるのか。恐らく我々が関わって作ろうとすると、地元の皆様が使うという時間が圧倒的に多い。その時に、5,000人規模と3,000人規模では維持管理費が全然違う。残り300日を支えるものが、この30日で叩き出せるという経営シミュレーションのイメージはあるか。
- ・笹川氏 土日、祝日で収益を上げていくイメージ。
- ・高森町 具体的なものが決まっている訳ではないと思うが、メインアリーナの使用料はある程度何百万の使用料を掛けていかないと採算が取れないと思う。一般の人がそこを利用するのはあり得ないと思っている。産業フェス等をやる場合は使用料を取ってやっていただくのも計画しないとイケない。ただし、サブアリーナを造っておけばそっちの一般開放は可能なので、その棲み分けは必要。

(2) 株南信州観光公社の日本版DMO法人登録について (資料No.2) 【説明：株南信州観光公社】

① 挨拶及び経過説明

② リニアプロジェクト等の進捗状況について

・調査、分析業務

*マーケティング調査がDMOの必須事項。

*サンプル数：1100、実施時期：7月～8月、10月～11月。

・DMOの形成と確立に関する事業

- *地域啓発事業：11月29日「DMOキックオフ講演会&パネルディスカッション」開催。
- ・旅の目的提案ワーキング
 - *地域資源を再評価、商品化し販売していくこと。
 - *県市町村連携ツアーを20回以上開催。
 - *企業研修プログラム（自治体と連携した森林営林作業等活用した研修プログラムづくり、ツアーチャの取組支援）。
 - *自然景観・ビューポイントの選定（南信州30景）。
 - *地産地消の向上を図るプロジェクトの推進。
 - *二次交通研究事業
- ・人材育成ワーキング
 - *ガイド、インストラクター養成研修（飯田、松川、阿南3会場で実施）。
- ・外国人誘客ワーキング
 - *インバウンド予約、決裁システム構築。
 - *ビジットジャパン商談会へ出展。
- ③ DMO関連シンポジウムに関するアンケート結果について
 - ・参加者：220名（20代～70代）、アンケート回収数：121
 - ・約80%がシンポジウムによりDMOに対する理解が深まったと回答。
 - ・訪問エリアの満足度：南信州地域23.3%（7段階評価で最高ランク7とした方の割合、かなり良い評価）。
 - ・リピート率：南信州地域44.4%（他地域に比較し劣っている）。
 - ・印象（体験プログラムやツアーの内容）：15.8%（他地域を圧倒し高い評価）。
 - ・総合満足度：33.3%（若い世代の本地域に対するロイヤリティが高い）。
 - ・地域の紹介意向及び地域への思い：若い世代が高い。
- ④ 日本版DMO形成・確立計画
 - ・DMO実施体制について
 - ・スワット分析におけるターゲット層について
 - *第1ターゲット層：教育旅行、学習塾、セカンドスクール、農山漁村交流体験、インバウンドの教育旅行団体。
 - *第2ターゲット層：20代～30代の若者（SNS、インスタグラム、YouTube等の活用）。
 - *第3ターゲット層：都市部の中老年層（来訪が著しく、土産・食事等の消費額が多い）。
 - *第4ターゲット層：ヨーロッパ、オセアニア、北米等の欧米外国人、ベトナム、タイ等の東南アジア（歴史を背景とした地域文化性の高さ、農泊は2017年クールジャパンアワードを受賞、親和性の高さ）。
 - ・コンセプトについて
 - *リニア時代に向けて、人も自然も産業も持続可能なツーリズムとして、観光側面から持続可能な地域づくりに貢献する。
 - ・KPI（実績・目標）について
 - *実質2年間は、準備期間としての取組を進める。

(主な意見等)

- ・ 連合長 DMOの登録は。
- ・ 観光公社 最終段階。正式発表は今週末か来週火曜日とみている。
- ・ 副管理者 地域連携DMOの正式登録に伴い、活用できる国の資金があると思うが。
- ・ 観光公社 インバウンド促進に予算を割くという見通しがある。インバウンドの体制整備も含め地方創生の交付金も視野に入れながら取組を進めたい。
- ・ 根羽村 地域連携DMOには大変期待している。効果が地方へも波及するようにお願いしたい。
- ・ 売木村 売木村もドイツ人に来ていただき、民家を改修している。この秋もヨーロッパから何人か来ている。要望があれば一生懸命やっているので紹介いただきたい。

(3) 平成 31 年度予算編成方針について (資料No.3) 【説明者：高田事務局長】

① 基本的な考え方について

- ・ 平成 31 年度は前期の基本計画期間の最終年度。次の 5 年間を見据えた施策展開を検討していく。

② 「リニア・三遠南信時代」を見据えた地域づくりについて

- ・ 基本構想の「5つの地域づくり」の視点で整理。
 1. 新たな産業の振興や誘致による地域づくり
 - * 「産業振興と人材育成の拠点」の管理運営：飯田産業センターとの連携
 - * (株)南信州観光公社の日本版DMO法人登録：公社へ機能及び情報を集約、広域観光を推進。
 2. 多地域居住の推進による地域づくり
 3. 芸術、文化、教育を活かした地域づくり
 4. スポーツと保健・健康の推進に着目した地域づくり
 - * 在宅医療と介護の連携：イズム・リンクも課題
 - * 看護師等確保対策：事業 3 年目、今後の方向性を検討。
 - * 阿南学園改築整備：具体的に着手、阿南町とも連携。
 5. 新たな機能の創出による地域づくり
 - * リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討：基本的な考え方（素案）の予算化。
 - * 地域内の新たな交通体系の在り方の検討。

③ 各会計における課題について

- ・ 一般会計・・・稲葉クリーンセンターの適切な運転管理。
- ・ 南信州広域振興基金特別会計・・・基金運用収入の確保。
- ・ 飯田広域消防特別会計・・・消防力の適正配置、署所の整備。
- ・ 稲葉クリーンセンター特別会計・・・安定した売電収入の確保、発電設備の適切なメンテナンス。

④ 予算編成の日程について

- | | | | | |
|-----|-----------|------------------|---|-----------|
| H30 | 12月19日(水) | 広域連合会議 | → | 予算編成方針の決定 |
| | 12月27日(木) | 正副連合長部会長会議 | → | 新年度予算査定 |
| H31 | 1月15日(火) | 広域連合会議 | → | 新年度予算案の決定 |
| | 2月6日(水) | 広域連合議会告示、議会運営委員会 | | |

2月25日(月) 広域連合議会第1回定例会 → 新年度予算案の上程、審議
→ 説明内容確認、質疑なし

(4) いいむす21登録判定について(資料No.4)【説明者：櫻井広域振興係長】

- ・ステップ区分：ISO14001 南信州宣言(更新)
- ・事業所名：勝間田建設(株)

→ 異議なし、承認

(5) 後援依頼について(資料No.5)【説明者：加藤庶務係長】

- ・第33回飯田やまびこマーチへの協力について
- ・日時：4月27日(土)・28日(日)

→ 異議なし、承認

(6) 大雪時のタイヤチェーン義務化について【発言者：阿智村】

- ・飯田山本IC～園原IC間。
- ・議会の提言内容について説明。
- ・ご意見等あればよろしくお願ひ申し上げます。

(主な意見等)

高森町：チェーンをしていれば通過出来るという認識か。

飯田建設事務所：十分な情報がない。22日に関係者が集まる。必要な情報はお伝えしていく。

(7) 南信州地域振興局から

- ① 地域振興局長からの提案、意見等の反映状況
 - ・予算が確定次第、報告する。
 - ② 平成31年度地域発元気づくり支援金重点テーマについて
 - ・支援金募集期間：1月4日から2月1日まで。
 - ③ 保護者向け就活セミナー開催報告
 - ・日時：12月1日(土)9:30～12:00 場所：飯田産業センター 43名参加。
 - ④ 県議会一般質問の状況
- 説明内容確認、質疑なし

(8) 飯田建設事務所から

→ 報告事項なし

(9) 飯田保健福祉事務所から

働き盛り世代の「健康づくりチャレンジ大作戦」グランプリ2018の結果報告

- ・8,000歩、9,000歩の生活を目指して。

→ 説明内容確認、質疑なし

4 今後の日程について

- 1月4日(金) 産業振興と人材育成の拠点 開所式 13:30
- 1月15日(火) 定例町村会、広域連合会議(飯田市役所)
- 1月15日(火) リニア関係市町村長とJR東海幹部の意見交換会(飯田市役所15:40)

5 閉会…17:30